

105-38

問題文

脂肪組織でのTG(トリグリセリド)の分解を阻害して肝臓への遊離脂肪酸の取込みを抑制し、肝臓におけるVLDL(超低密度リポタンパク質)の産生を低下させるのはどれか。1つ選べ。

1. ニコモール
2. アトルバスタチン
3. コレスチラミン
4. イコサペント酸エチル
5. クロフィブラート

解答

1

解説

選択肢 1 は妥当な記述です。

ニコモールは、脂肪細胞のニコチン酸受容体を刺激することで、脂肪細胞からの遊離脂肪酸の放出を抑制します。 ()

選択肢 2 ですが

アトルバスタチンは、HMG-CoA 還元酵素を阻害し、肝細胞の低密度リポタンパク質(LDL)受容体を増加させます。TG の分解阻害ではありません。よって、選択肢 2 は誤りです。 ()

選択肢 3 ですが

コレスチラミンは、陰イオン交換樹脂です。腸内で胆汁酸と結合し、大便と共に排泄されることにより、胆汁酸の腸肝循環を妨げます。胆汁酸の排出により、不足した胆汁酸を合成しようと、コレステロールの使用が促進されます。そのため、血中からコレステロールを取り込もうと、肝細胞において LDL 受容体発現が促進されます。その結果、血中コレステロールが減少します。TG の分解阻害ではありません。よって、選択肢 3 は誤りです。 ()

選択肢 4 ですが

イコサペンタエン酸エチルは、イコサペンタエン酸 (EPA) 製剤です。様々な作用機序を通じて、脂質異常症を改善させます。記述が妥当と判断することはできません。 ()

選択肢 5 ですが

フィブラート系薬です。核内受容体である PPAR α に結合することにより、肝臓での中性脂肪合成を抑制すると共にリポタンパク質リパーゼを活性化させることで、血中の中性脂肪値を低下させます。TG の分解阻害ではありません。よって、選択肢 5 は誤りです。 ()

以上より、正解は 1 です。